

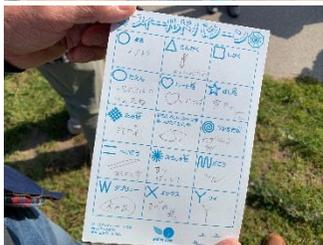
# 「ちいさい秋を見つけよう」

～五感を使って秋の角島楽しもう！～

2025.11.08 (土) 実施



11月8日(土)、下関シェアリングネイチャーの会の皆様を講師に、「ちいさい秋を見つけよう」～五感を使って秋の角島楽しもう！～を実施しました。はじめの会をすませ、早速外へ。キャンプ場の野外ステージへと移動しました。最初のゲームは、「ノーズ」。講師から、ひとつの生きものに対して、いくつかのヒントが出て、生きものを推測し、答えがわかったら言葉では言わずに鼻に人差し指をあてて、全員が鼻に指をあてたら、講師の掛け声に合わせて参加者で答えを言いました。ハチ、クマ、タヌキ、リスと次々に問題が出されて盛り上がりました。次は、「フィールドパターン」。カードを使って、自然の中にあるさまざまな形や模様を探し、カードに○をつけて特徴をメモし、最後に発表をしました。いろいろな視点があることに気づきました。右脳を刺激して、脳が活性化したように感じました。次は、「目かくしイモムシ」。イモ虫歩きで、仲間と一緒に自然を感じながら、発見や喜びを共有しながら楽しみました。新しい自然散策のスタイルだと思いました。最後に「ビーチコーミング」。バンダナで袋を作り、その中にお気に入りの貝がらや漂着物を拾って、入れました。参加者の感想に、「普段感じ取っていなかった感覚を見つけることができた。」秋”というより自然を感じる事ができたとても良い時間でした。」とありました。少ない人数でしたが、ゆったりとした時間の中で、秋を堪能することができました。



# 出張ミニ水族館

～水産大学生のいきもの教室～

2025.12.20 (土) 実施



市内吉見に、農林水産省が所管する水産に関する専門知識と技術を教え、水産業界のリーダーを育成する省庁大学校の「水産大学校」があります。つのしま自然館（以下、自然館）では、以前、「打上げ貝観察会」の講師補助を水の生き物研究会（以下、アクラス）の学生さんたちをお願いしたことがあり、昨年、アクラスの部長さんに連絡を取り、何度か話し合いをする中で、今回の企画が実現する運びとなりました。

事前に、展示する魚の水槽と数々の展示物を設置していただき、12月20日(土)、「出張ミニ水族館～水産大学生のいきもの教室～」を実施しました。「アブラボテ」や「オキゴンベ」など生きた魚を間近で観察しながら、学生さんたちによる解説や参加者の質問にも答えていただきました。参加した子どもの感想に、「いろいろな魚のことが知れてよかったです。いままで分かっていなかったことも分かってよかったです。楽しかったです。」とありました。また、保護者の感想には、「水大生にいていねいに質問に答えていただいて、とても勉強になりました。子どもたちも知識が増えて、満足そうでした。海水魚、淡水魚、骨格標本といろいろな分野の実物を見ながら説明を聴けたのでよかったです。」とありました。

今回、19歳から21歳という若き大学生たちに、子どもたちの容赦ない質問に対して、どんどんと説明して答えていく姿を見て、知識を伝えることより、水の生き物愛が子どもたちに伝わっていくのを肌で感じました。今年のノーベル賞受賞者の日本人2人の若者たちへのメッセージ「好きなこと興味があることを追及して仲間と協力して道を開いてゆくこと。」を目の当たりにした一日でした。今後、館内の展示に、アクラスが作成された骨格標本などを追加する予定です。

